

平成 25 年度「南東北災害ボランティアセンター運営者養成合宿 in 山形」 開催要綱

1. 趣 旨：

東日本大震災から、間もなく3年を迎えようとしています。被災を受けた各地では復旧・復興に向けた取組みが、継続して行われています。

一方、南東北地方（宮城県・山形県・福島県）においては、2011年7月新潟・福島豪雨水害、2013年7月には山形県南陽市、福島県喜多方市など、その後も災害が頻発しており救援活動、支援活動が行われました。どの地域であっても災害ボランティアセンターの設置など災害時の対応や事前の備えが必要となっています。

災害対応にあたっては、災害ごとに異なる被害状況や地域事情、被災者の状態等をふまえ、地域住民や内外の関係者等と力を合わせて支援を展開していくこと、そして災害ボランティアセンター設置・運営にあたっては、平時からの地域とのつながりをもとに社協の役割や機能を十分に発揮していくことが求められています。

そこで、社協が中核となる協働型災害ボランティアセンターにおいて、地域内外からの運営支援者やボランティアとの協働により被災者支援を進めていくための理念や考え方を理解し「運営者」としての力量を高めていくこと、地元特有の災害や具体的な地域を意識しつつ、実際に災害が起きた際には、お互い「助け助けられる」関係づくりを構築することなどを目的に、合宿形式により本研修を実施します。

（平成 20～22 年度の 3 年間に、全社協が実施した「災害ボランティアセンター運営支援者研修」（外部から被災地に支援に赴く人材養成）とは、位置づけの異なる研修です）

2. 主 催：社会福祉法人 全国社会福祉協議会、社会福祉法人 山形県社会福祉協議会

後 援：社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会、社会福祉法人 福島県社会福祉協議会

3. 日 程：平成 26 年 2 月 28 日（金）～3 月 1 日（土）

4. 会 場：「日本の宿 古窯」

〒999-3292 山形県上山市葉山 5-20

TEL 023-672-5454

（交通・地図：<http://www.koyoga.com/>）

5. 参加対象：(1)市区町村社会福祉協議会および都道府県・指定都市社会福祉協議会の職員
（災害発生時に社協災害ボランティアセンターの設置・運営の中核を担う者）

(2)宮城県、山形県、福島県の各県社会福祉協議会が推薦する者

6. 定 員：60名

7. 申込方法：

(1) 所定の「申込書」にて、全国ボランティア・市民活動振興センター宛てにお申込みください。ただし、定員が埋まりしだい、申込みを締め切ることをご了承ください。

(平成26年2月14日(金)締切・必着)

(2) 参加者間の「顔の見える関係づくり」を目的の一つとしていることから、研修会場となっているホテル（古窯）に宿泊していただくことが条件となっています。

(3) 参加対象者に対し、後日、エントリーシートおよび請求書を送付いたします。

8. 合宿参加費用：17,000 円（内訳：研修受講料 4,000 円、情報交換会参加代・宿泊代 12,000 円、二日目昼食代 1,000 円）

9. 本研修の実行委員（企画・運営）（敬称略）

渡邊陽（山形県社協）、竹田三佳（南陽市社協）、塩野弘子（南陽市社協）、佐藤儀幸（山形市社協）、大場万由美（山形県身体障害者福祉協会）、宮崎克子（宮城県社協）、稲荷智康（柴田町社協）、渡辺誠一（福島県社協）、鈴木康（会津若松市社協）、桑原英文（コミュニティ・エンパワメント・オフィス FEEL Do）、篠原辰二（Wellbe Design）、千川原公彦（ウェザーハート災害福祉事務所）、全国ボランティア・市民活動振興センター

10. プログラム（一部変更する場合があります）

① あいさつ・趣旨説明（2月28日 13:00～13:15）

② ネットワーキングタイム（13:15～14:00）

災害ボランティアセンターの中核を担うことが求められる社協において、お互い連携しえある仲間があり、困ったときは助け合える関係性があることが、社協ネットワークの強みです。まずは近いところからつながり合いましょう。

③ トークセッション「南東北における災害と支援活動にふれる」（14:10～16:10）

自分の地域で災害が発生したときに、どのような住民課題、地域課題が発生するのでしょうか。そして災害ボランティアセンターの運営の中核を担う「運営者」にはどのような判断・対応が求められるのでしょうか。この間の南東北における災害経験や事例をもとに、参加者全員で考えていきます。

④ 演習1「発災直後の対応」（16:25～18:25）

発災した災害した際、社協職員としてどのように対応すべきでしょうか。発災直後から数日以内におこりうる出来事を時系列的に整理する演習を行います。また、想定しがたいアクシデントへの判断基準である「そもそも災害ボランティアセンターは何のため、誰のためにあるのか」、を考えていきます。

⑤情報交換会（19:00～21:00）

災害ボランティアセンターの運営にあたっては、関係者がチームとなり、同じ目標に向かって行動していくことが求められます。この情報交換会では、そのスキルアップを目的としたプログラムです。

⑥演習2「災害ボランティアセンターに必要とされる資源の確保と判断」（3月1日9:00～12:00）

災害ボランティアセンター運営者として、「ひと」「もの」資源の確保・活用と理解を深めていきます。また「判断」を迫られる場面を想定しながら、特に平時において社協が関係者と協働するために必要なことは何かをあらためて考えます。ワークを通して、グループメンバーとの関係性を築き、このつながりを今後の活動に活かせる場となるよう参加者全員で取り組みます。

⑦講義と演習3「2日間のまとめとふりかえり……これからへ向けて」（13:00～15:00）

2日間の研修全体を通じて共有すべきポイント等を整理し、今後各参加者が地元において「運営者」として防災／減災あるいは災害時の対応に関する活動を展開していくための視点／留意点などをあらためて確認します。

そのうえで、2日間の学びを明日につなげるために、わたしたちに求められる大切な視点は何か、組織（職場）や自分自身の現状を再認識し、研修終了後の地域実践に活かすための具体的な行動計画を策定します。

11. その他：

- 参加者間の交流を図るため、60枚程度、名刺をご持参ください。
- 参加者間の交流を目的の一つとしているため、宿泊していただくことが前提となっています。居室は相部屋であることを予めご了承ください。
- 研修会参加者には、申し込み後、エントリーシートにご記入いただきます。エントリーシートは、受講決定後、メールにて送付します。

12. プログラムに関する問合せ先：

全国社会福祉協議会・全国ボランティア・市民活動振興センター（古橋、後藤）

〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

電話：03-3581-4656 FAX：03-3581-7858

Eメール：vc00000@shakyo.or.jp